

氏名： 村田 眞弓 (MURATA Mayumi)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 文学修士 (1979 東京大学)
職名： 准教授
専門分野： 17 世紀フランス文学
URL： <http://www.li.ocha.ac.jp/index.html>
E-mail： murata.mayumi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

フランス 17 世紀宗教思潮／神秘主義／古典主義
French religious thought in the 17th century / mysticism / classicism

◆主要業績

総数 (1) 件

- ・「古典主義時代における自己愛ーークレーヴの奥方が希求した静穏とは何かー」(お茶の水女子大学『人文科学研究』第 4 巻 2008 年 3 月 pp.75-87)

◆研究内容 / Research Pursuits

神学的地平で論じられることが多いフランス 17 世紀後半の神秘主義思想を、より広い文脈において理解するために、当時の自然観・人間観等を踏まえつつ、その表れの一つを文学作品に探る試みを行った。『人文科学研究』第 4 巻に発表した論文はその成果である。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部：17世紀フランスの文学作品の講読を通じて「近代」について考えるきっかけを与えると同時に、古典的フランス語読解のすべを学ぶという基本的方針の下、2007年度はラファイエット夫人の『クレヴの奥方』を取り上げた。年度後半は同作品についての研究を各自担当発表することで、分析・考察・発表の技術習得も行った。

大学院：ベルナール・トカンヌ『フランス17世紀後半における自然概念』の第2部「人間における自然」の章を出発点に、フランス17世紀の研究を専門とする学生を対象とした討論重視の授業を行った。

◆研究計画

「文学」に「思想」を読むというスタンスをもう少し継続する。フェヌロンが携わった静寂主義論争は、神秘主義思想を神学的議論の場に持ち出したときの不幸を余すところなく顕わにしている。宇宙観・世界観としての神秘主義思想は、むしろ「文学」にこそ、その十全な表れを示し得るのではないか。

◆メッセージ

17世紀フランスに関心を持つ学生はそう多くはない。確かに遠い昔の事柄であり、「今」の関心と重なる部分は少なく、「現在」の問題意識に対する即効性に乏しい。だが本当にそうだろうか。科学も学問も進歩し続けるという考えの欺瞞性が暴かれて久しいが、まだどこかでこの神話を信じたがっている自分に気付くとき、また理路整然と論述できることが絶対の価値であると教えられ、論理的整合性の枠をはめることのできない事象には目を瞑り、見て見ぬ振りをしてしまいたくなった時、そうした考え自体が実は「近代」の申し子であることに改めて思いをはせるべきだと思う。そして現在われわれが直面している問題の多くがそうした「近代」に根ざすものである以上、いったい「近代」とは何なのか、何であったのかを今一度自分自身で考えてみるべきではないだろうか。この「近代」が17世紀ヨーロッパのあたりから始まること、デカルトを生んだフランスにその一つの典型があることを考えるなら、17世紀フランス研究が取り組み甲斐のあるテーマであることは明白だ。